西東京市市民協働推進センター

平成29年度第9回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成30年1月16日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第1、2会議室
■出席委員：池田委員、熊谷委員、古林委員、紺野委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、谷委員＜以上7名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、鈴木副センター長、小平福祉活動推進課長、妻屋福祉活動推進課長補佐兼係長、山田主任

## 1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、12月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：エコがテーマの公民館講座の講師に枝元さんを推薦したのはなぜか。

事務局：コール田無での講演が良かったとの話を聞き、色々な情報の一つとして伝えた。

2. 1月以降の事業について

事務局より、1月以降の実施事業について説明があった。

委　員：団体交流会に出席するのはNPO市民フェスティバル（以下、フェスティバル）の参加者か。

事務局：そうだ。フェスティバル当日は忙しいので日を改めての開催となる。

## 2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

事務局より新規事業について補足説明を行った。

事務局：行政提案型の募集要項ができたのでお手元に配布している。

委　員：子どもの居場所づくりというのは常時行ける場所のことを指すのか。

事務局：具体的な表記はなく常設でなくてもよいと思うが、できるだけその方向で考えていると思う。

委　員：子どもが行きたいときに行ける場所か。

事務局：一件の助成金の上限が20万円なので、常設というのは難しいのではないか。

委　員：月1回程度の開催を対象とするのか。

委　員：具体的に書いていないが、月1回程度開催から常時型のものまで幅広いものが対象になると思う。

委　員：飲食代に関して協働コミュニティ課に聞いたがはっきりしない。基本的には飲食代はだめだとの見解で、要項が変わらないのであれば、放課後カフェ等では参画は難しい。

事務局：こちらからも確認する。

委員長：確かにイメージが持ちにくい。行政提案型で継続性は求められている。事業化のきっかけになればいいのではないか。

事務局：募集は単年度ごとだが継続は視野に入れている。

委　員：20万円が出るのは一年限りではないのか。

事務局：新規チャレンジ部門と継続ステップアップ部門に分かれており、継続していけば継続ステップアップ部門が使えると思う。
委　員：テーマが1年毎に変わるかどうかもある。NPO側でも提案し、行政側も内容を見て政策にしていく方法もあると思う。
委員長:初めての試みであり、今後は改正されていくと思われるので情報があれば共有していきたい。
委員長:会議録は意見がなければ確定稿とする。

## 3. 協　議　事　項

1. 運営委員会について

事務局より平成30年度西東京市市民協働推進センター運営委員会委員名簿（案）について説明があり、次期運営委員候補について協議した。

2.センターの業務執行に関する事項（重点事業の企画）について

事務局より地域活動・スタート交流会（企画案）について説明があった。
委　員：作って食べて交流するのか。
事務局：そうだ。
委員長：地域活動紹介は団体の紹介のことか。
事務局:地域活動･スタート説明会でのアンケートで要望があればその団体を呼ぶことも考えているが、おとぱサロン参加メンバーに実体験を交えて話してもらう予定である。
委　員：一昨年はうどん、昨年は餃子を作って交流する企画をしてきたが、こういうやり方は成果が出ているのか。
事務局：初対面の参加者ばかりなので、料理等が交流のきっかけになっているのではと考えている。
委員長：フェスティバルの実行委員をされてる方の1人は2～3年前のカレー作り講座に参加し、それから市民活動をスタートしている。こういう事例もあるので、きっかけにはなると思う。だが、カレー、うどん、餃子というのはわかるが、コッペパンは男性側から見て魅力がないのではないか。
委　員：ターゲットは女性と感じた。
委員長：「おいしいコーヒーを一緒に」くらいの方が参加しやすいのではないか。
委　員：チラシは料理に関しては具体的だが、地域活動についての交流の部分は記述がなくイメージが湧かない。一般市民から見ての地域活動像が分かるようにした方がいい。
副委員長：今はコッペパンがはやっているので、切り口としては面白い。野菜スープよりコーヒーの方が参加しやすいのではないか。地域活動については、団体を知りたいのか地域に貢献できることを探したいのかを絞り込んではどうか。
委員長：今回の講師に頼んだことがある。その体験から、野菜を切るという作業過程で話が弾むという講師の明確な意図があった。野菜スープもそのイメージだと思うので、こちらの意図を講師に伝えて欲しい。
委　員：タイトルが「お楽しみ交流会」ではイメージが湧きにくい。
委員長：地域活動をもっと前面に出し、具体的な地域活動を表す他の言葉を使ってはどうか。
委　員：タイトルは長くていいから地域活動をしようと思っている人達が集まる交流会等わかる方がいい。

委　員：見やすいチラシにした方がいい。
事務局：意見を参考に修正する。

3. 来年度事業の進め方について（フリーディスカッション）

事務局より平成30年度事業計画における（仮称）自主企画委員会について（案）について説明があった。

委員長：小平、三鷹方式を見てどうか。
委　員：小平と三鷹のイベントの特色を教えて欲しい。
事務局：三鷹は市民参加が進んでいる市になる。市民参加の「がんばる地域応援プロジェクト」が盛んでそれに対する審査会をやっている。小平はイベント部会に市民・市民団体が参加し講座を作っている。
委　員：他の市は市民参加の活動はないのか。
事務局：八王子は色々やっているが運営まで任せるというのではない。
委　員：調布は運営委員主体の案3に近い形でプロジェクトをやっている。市民参加ではなくて運営委員中心でやっている。
委員長：三鷹方式は事業を運営するためと書いてあるがどういうことか。
事務局：問い合わせた際に先方から回答されたもので、スタッフの位置づけに近い。
委　員：三鷹は助成金が出て事業が行われている、小平は助成金が出ないという点は特長か。
事務局：助成金は「がんばる地域応援プロジェクト」に出ており、各地域で助成金の申請を行ってるが、三鷹市市民協働センターで行っているのはその審査会だ。
委　員：審査会には予算がつかないということか。
事務局：確認していないが、センターの事業運営の中でやっていると思う。
委　員：小平のイベント企画はそれぞれ年4回やっているということか。
事務局：そうだ。三鷹の特徴はセンターの運営そのものを行政と市民の協働運営をする形をとり、会員という形で一緒に活動しているということだ。
委　員：前回も出たが誰がやるかということが重要だ。小平は企画したものを運営会議で取捨選択している。三鷹は自由がある。
委　員：三鷹は会員だから自由があるが、小平は会員ではないのでチェック機能が必要だということだ。西東京市で募集してそんなに人が集まってくれるのか。
委　員：三鷹は長い歴史があるが、西東京市ではここで初めていろいろな人を巻き込みながら裾野を広げていくという事ではないか。
副委員長：案3の中で専門委員会の話がでてきたが、説明して欲しい。
事務局：運営委員会の設置規則の第8条にあるが、運営委員が核になって専門委員会に入ってもらうことも可能ということだ。
副委員長：例えば、子どもの居場所づくりのテーマでまちづくり円卓会議を開きたい、その時に専門委員会に任せたいということになれば運営委員も含めメンバーを募ることもできるということか。
事務局：そうだ。
委　員：23区内の情報はないのか。

委　員：23 区でもやっている。西東京市のようにセンターがあって運営委員会があり、専門委員会があるという形を取っている。
委　員：前回の話では、企画の段階で、ゆめこらぼだけで考えるのではなくて、運営委員会や登録団体からメンバーを募って考えていくという案ではなかったか。
事務局：そこに絞ってはいなかった。
委　員：イベントをみんなで一緒にやろうという話なのか。
委員長：自主企画委員会の話がどういう経緯で出て来たのか、再度確認したい。
事務局：そもそもは、事務局がセミナー、講座を企画するのではなくて、ニーズを持っている団体、市民も加わって、その意見を反映した企画ができないか、というところから提案した。小平のイベント部会に近い形だ。また一方では、運営委員会のあり方も含め、運営委員が企画提案するような事業があってもよいという案もあり、この 2 つで話して頂くとのことだった。案 1 は事務局が提案したもの、案 3 は運営委員会を主体としたものに近い形だ。
委　員：結局誰がやるかによる。運営委員がチェックするという事なら案 1 でいいのではないか。
委　員：運営委員がどこまでやれるかにもよる。
委員長：小平ではイベント部会の他に運営委員会があるのか。
事務局：小平では基本的には運営委員と部会メンバーは被っていない。理事の方は入っている。
委員長：その形だと運営委員の役割は部会からの提案をチェックする事になる。
委　員：案 3 の専門部会ということになれば、運営委員の権限も大きくなる。運営委員自体公募で広く市民に声掛けが必要となるのではないか。
委員長：評価する側の公平性ということか。案 3 では運営委員の比重が高くなる。
委　員：運営委員会をどのようにしていくかと、イベントをどのように作るかを一緒に議論するのは無理がある。
事務局：その通りではあるが、今までの運営委員会の議論を考慮すると、案 1 と 2 だけではなく、運営委員のあり方も踏まえた案 3 を提示した。先程の意見であれば、案 3 は除いて、案 1 と 2 で検討するのも選択肢だ。
委員長：案 3 は運営委員会の懸案事項であった、運営委員会のあり方を考慮してくれたものだ。誰がやるのかで 3 つの案に分かれる。案 3 の場合 11 名の運営委員の中で 3～4 人で専門委員会を作ることになる。
委　員：規定によれば運営委員が 0 名でも可能だと思う。
委　員：小平では多くの市民を集めるのに苦労しているのか。
事務局：そこまで聴き取れていない。
委　員：案 1 で出来ればいいが、人が集まるかが課題だ。
事務局：初年度から完璧は望めない。まずは登録団体の意向を聞き取りながらのイベントを一つ行うことからスタートできれば良いのではないか。
委員長：一足飛びに市民まで広げると折角ゆめこらぼに登録している団体のメリット感が薄れるのではないか。
委　員：公募の時に団体の人でも個人として参加できるし、そこまで考慮の必要はないのではないか。
事務局：公募の時に一般市民と団体を対象とすればよい。
委　員：利用団体の場合代表ではなくて会員でもいいのではないか。

委員長：人数に関してはどのように考えているのか。多い場合断ることになる。その場合会員というのは面倒ではないのか。
委　員：先着順でいい。
事務局：先着順というのはどうか。書類選考は必要ではないか。
委　員：ゆめこらぼの登録団体の中から手を挙げてもらうのが良いのではないか。
委　員：自主企画委員会は個別具体的な事を決めるのではなく、俯瞰的な意見を言ってもらいながら団体間でコラボしてもらい運営委員会が絡めればいいとのことだったのではないか。そうであれば案1で運営委員かが絡むのではなく、抽象度の高い部分について俯瞰的に見て団体に還元するのではなかったか。
委員長：俯瞰的な視点での集まりとのワードは出ていた。運営委員会は、その集まりの中で出てきたテーマが俯瞰的で共通性があるかどうかを評価するという役割を担ってもいい。
委　員：様々な分野の人がいろいろな意見を言うという事では大変ではないのか。
委　員：ゆめこらぼ側ではこうしたいということはあるのか。
事務局：案3に緩やかな交流会的なものにする案もある。事業を行うというよりはネットワークを広げる方向にもっていくのも1つの方法ではないか。
委員長：既存の事業で自主企画を適用できるものはあるか。既存の事業の進め方に運営委員会が自主企画の俯瞰的な観点から加わるということもできる。
事務局：今の委員の話は短期的に物事を考えなくても良いのではというように理解した。事業化ではなく団体交流会的な位置づけでも良いと考えらる。
委　員：将来的な観点からの情報交換ができればいい。
事務局：講座・セミナーで予算化しているのでそこで活用してもらいたい。実際自主企画を行うことで課題が浮き彫りにされ次の展開が期待できる。
委員長：企画対象、企画内容については、講座、セミナーを含めた情報交換の場として展開できればと考える。基本的にはただ集まる場としての役割、という事か。次回は今日の議論を踏まえて素案の提案をお願いしたい。やはり誰がやるかというのが肝心だ。
事務局：今日の話し合いではやはり登録団体中心ということになると考える。それでよろしいか。
委員長：結構だ。

## 4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：2月20日（火）19時～21時
会場：イングビル3階　第1,2会議室